

## 鬼太鼓

鬼太鼓、あるいは地元の方言で「おんでこ」は、鬼（神の力を持つと考えられている）が踊りながら太鼓をたたき、近隣や集落の厄を払う伝統芸能です。鬼太鼓は佐渡島固有の文化で、120 を超す集落が独自の伝統を有しています。

踊りには、一足、豆まき、前浜、花笠、潟上という 5 種類の主流スタイルがあります。一足系では鬼は片足で踊ります。豆まき系では、武士に相応しい着物を纏った 2 人目が加わります。前浜系では笛の演奏、さらに 1 人ではなく 2 人の鬼が特色となっており、花笠系は鬼の踊りと、踊り手が花を飾った円すい形の帽子をかぶって踊る花笠踊りが融合しています。潟上系はもっとも一般的な様式で、能と獅子舞（日本のライオンの踊り）の技法が取り入れられています。

いずれの鬼太鼓も、始まる前に鬼と踊り手のグループが地元の神社に集まり、清めの儀式に参加します。その後、鬼と踊り手は集落へと向かい、一軒一軒の家に立ち寄って、太鼓、踊り、詠唱で厄を払います。鬼太鼓の最後は、鬼と踊り手の各グループが神社に戻り、生き活きとしたフィナーレで最後のエネルギーを使い果たします。鬼太鼓は、春と秋に開催される地元の神社のお祭りのほか、年に一度 5 月に開かれ、「佐渡おけさ」という伝統的な歌と踊りも披露される「佐渡國鬼太鼓どっこむ」で体験することができます。

